保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ビジネス実務ＩA</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51050101</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>60</td><td>4</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。
そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とし講義内容とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力ができる。
・マナー、礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。
・自己理解の深化、職業理解の促進、キャリアプランニング能力の育成、社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力、問題解決力、情報収集能力などのスキルの習得。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験(95%)、出欠席(5%)</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">伊丹　稔博</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">「ビジネスマナー基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">ビジネス実務ⅡＢ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">１．学校行事
①新入生オリエンテーション
②1 年生合宿
２．ビジネスマナーの基本
①基本姿勢
②重要性
③身嗜み
④言葉遣い
⑤挨拶の基本
⑥理解度チェック
３．ビジネスマナーとルール
①目標の立て方
②仕事の進め方
③時間管理
④報告連絡相談
⑤理解度チェック</td><td colspan="3">４．キャリア
①就活のプロセスの理解
②自己理解
③世の中、社会を知る
④社会人基礎力
⑤自己分析
⑥ビジネスを知る
⑦業界、職種を知る
⑧価値観と適性
⑨就活／社会人に向けて一計画行動と日々の習慣
５．キャリアチャレンジ</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	教育心理学			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	こどもの成長の過程で見られる事象は個に閉じた事象ではなく、取り巻く環境に支えられていることも見逃せない。 多様な子どもたちが多様な環境の中で何をいかに学び・育ち、またいかにそれらの場で「躓き」の体験をするのか、またその場に居合わせる大人としてできることは何か、多様な例を通じて考え進めていく。 教育現場で必要となりうる心理学の基礎概念と基礎知識の習得を目指す。					
到達目標	子どもたちの最も近くに居る者の一人として、子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことが主題である。 そのために①発達論、学習論の基礎的知識を修得し、②幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探求を十全に展開させるための基本的な態度の基礎を形成することを到達目標とする。					
評価項目	単元ごとの授業内レポート（100%）					
評価基準	完成度、期限等にて成績を付ける ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	光井　麻理			非常勤		
実務経験者による授業	講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。					
テキスト・参考文献	伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』㈱みらい　2008 年 講師より資料を配布する。					
関連科目	幼児の心理学					
授業計画	1.　「学びの場の中の子ども」ー発達に関する基礎概念第 2.　発達（1)発達論①ー運動・認知発達について 3.　発達（2)発達論②ーことばと社会性の発達 4.　学びと遊びと環境ー主体的な学びを支えるものと発達 5.　学習の基礎（1)記憶―知識と問題解決 6.　学習の基礎（2)学習理論 7.　学びや探求を支えるものー動機づけ・集団づくり・学習評価 8.　学習指導・発達支援の基礎（1)学び育つ者と教え育む者の関係論 9.　学習指導・発達支援の基礎（2)学びと育ちの多様性 10.　学習指導・発達支援の基礎（3)教育と支援					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">幼児の心理学</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51062101</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を行かせるようになることを目的とする。人はどのように学習を行っていくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学び、また、心理学における様々な研究から得た知見を学ぶことで、保育の実践の中で工夫や適切な援助ができるようになることを目指す。
心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を行かせるようになることを目的とする。人はどのように学習を行っていくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学び、また、心理学における様々な研究から得た知見を学ぶことで、保育の実践の中で工夫や適切な援助ができるようになることを目指す。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">心理学の基礎知識や様々な理論について理解し、文章で説明できる力をつける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">提出物（レポートの提出、課題の提出)95%、出欠席 5%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">完成度、期限等にて成績を付ける
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">伊丹　稔博</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">実践に活かす保育の心理学　原田喜充　2023 年</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教育心理学</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　幼児の心理学とは
2.　ピアジェの発達理論について
3.　心理学の研究方法
4.　アタッチメントについて
5.　遺伝と環境について
6.　発達障害について
7.　発達の最近領域について
8.　二項関係、三項関係について
9.　オペラント条件付け
10.　パーテンによる遊びの研究
11.　幼稚園、保育所と小学校との学びの違いについて</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	健康（指導法）			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。教育学、保育学、心理学、医学の諸領域による知見を理解することに加え、新聞やインターネットなど情報から現代的な課題を探求することによって実践的な課題を再確認していく。					
到達目標	幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。					
評価項目	課題レポート　50% 単位修了試験（グループ発表・個人ワーク）50%					
評価基準	課題レポートの完成度、発表の内容等から評価する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	石田　博也			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29 年公示)』チャイルド本社 ・厚生労働省編『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月)』フレーベル館 ・英和辞典（和英辞典)：各自で準備					
関連科目	健康科学					
授業計画	1.　幼稚園教育要領における「健康」領域の概要と指導法 2.　健康の概念について 3.　幼稚園教育における評価法一（「運動あそび」を中心に） 4.　幼児期の健康と安全とその後 5.　幼児の運動あそびと発達を踏まえた教材研究第 6.　情報機器を活用した「健康」指導法 7.　運動遊びの指導計画の作成第 8.　模擬保育 9.　模擬保育の振り返り					

保育学科　2025 年度

科目名	人間関係(指導法)			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	・子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。 ・保育内容の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・子どもの人間関係の発達と保育者の援助の意図を理解する。 ・子どもの人との関わりを育む指導について、模擬保育への取り組みを通して計画、実践、考察することができる。					
到達目標	・保育内容 5 領域は明確に切り分けられるものではなく、相互に重なりをもって日々総合的に保育がなされていることの理解。 ・「人と関わる力」の育成は、保育の質及び保育者の関わり方の影響が大であることの理解。					
評価項目	レポート（指導案）20%、単位修了試験 80%					
評価基準	レポートの内容、試験の結果にて評価を行う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	金　俊華			非常勤		
実務経験者による授業	幼児と人間関係					
テキスト・参考文献	幼児と人間関係　―保育者を目指す―　同文書院					
関連科目	保育実習指導Ⅰ					
授業計画	1.　領域「人間関係」の観点 2.　領域「人間関係」のねらいと内容と何か 3.　自己の形成と他者理解 4.　集団における自己の発達 5.　社会性の発達と遊び 6.　協力・競争・排除 7.　思いやりと道徳性の芽生えと集団生活に必要な規範 8.　子どものコミュニケーション 9.　保育者の役割と指導について 10.　まとめ					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">教育原理</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51011701</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">教育に関して自分なりに思考するために必要な基礎的な知識を学ぶ。まず教育の意義、目的を理解し、思想や制度の歴史的変遷について学ぶ。次いで、日本における教育と諸外国における教育について理解する。さらに、現代社会における教育の課題を知り、連携による教育・保育について考える。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・教育についての基礎的な知識を習得している。
・子どもの教育の歴史的・制度的な変遷を理解している。
・現代の日本社会の教育問題について意識を向けている。
・「教育とは何か」という問いに、自分なりの考えを持っている。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験(95%)、出席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験にて理解度を図る
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">小坂田　佐弓</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">『保育のための教育原理』垂見直樹・金俊華・大間敏行・三木一司　著
ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">保育原理、教育課程総論</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　教育とは何か
2.　幼児教育思想の歴史
・「子ども観」の今昔
3.　幼児教育思想の歴史
・近代幼児教育思想の源流
4.　幼児教育思想の歴史
・日本の幼児教育と倉橋惣三
5.　教育制度の成立と幼児教育の展開
・江戸期における子どもの教育
6.　教育制度の設立と幼児教育の展開
・近代教育制度の成立と幼児教育の普及
7.　教育制度の設立と幼児教育の展開
・大正新教育と幼稚園令の制定
8.　戦後日本における教育の再出発
・戦時下の幼稚園教育
9.　戦後日本における教育の再出発
・新たな教育制度の成立
10.　「乳幼児期の教育」の制度
11.　諸外国における教育・保育
12.　教育の計画と評価
13.　現代社会と生涯学習
14.　教育／保育現場をめぐる現代的課題
15.　連携による教育・保育</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	児童文化			科目コード	51051201	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	30	2	無
授業の概要・目的	児童文化は、大人が子どものために作ったり、子ども達自身が作ったりしながら伝承していく。文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であるが、明確に区別できない部分も多い。しかし、現在の学校教育偏重の子どもの生活の中で、学校教育にない重要な部分の学習の機会を得る児童文化の領域の存在意義は大きい。 この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握することで、実践的な指導ができるようになることを目標とする。					
到達目標	・近畿大学九州短期大学におけるレポート ・科目試験に合格すること					
評価項目	レポート提出(50%)、提出物(45%)、出欠席(5%)					
評価基準	レポートの完成度、提出期限等にて成績を付ける。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊丹　稔博			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	児童文化（近畿大学通信教育部）					
関連科目						
授業計画	1.　レポートの解説 2.　児童文化の重要性について 3.　子どもの作る児童文化財 4.　子どものスポーツと遊びの関連性 5.　伝承遊びとわらべうた 6.　折り紙とぬりえについて 7.　読み聞かせについて 8.　絵本と紙芝居 9.　絵本の選び方、与え方 10.　人形劇について 11.　子どもと遊びについて 12.　遊び場と施設について 13.　児童文化の組織と活動					

保育学科　2025 年度

科目名	音楽表現(指導法)			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	1 年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。					
到達目標	幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。					
評価項目	模擬授業の発表　40% 指導計画の記述内容　20% 劇遊び（発表）40%					
評価基準	模擬授業の発表内容、指導計画の記述内容、劇遊びの完成度（発表） ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	井上　美樹			非常勤		
実務経験者による授業	音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室					
テキスト・参考文献	・『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド社） ・『音楽　ピアノ教本』（近畿大学九州短期大学通信教育部） ・『子どもの歌 100 選』絵本の活用					
関連科目	音楽Ⅰ、幼児と音楽表現					
授業計画	1.　教育要領、保育指針における領域「表現」 2.　幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点 3.　幼児の理解と評価 4.　音楽表現あそびの教材・情報収集 5.　音楽表現あそび（歌あそび） 6.　劇遊びを演じる					

保育学科　2025 年度

科目名	環境(指導法)			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察する。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施する。 動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。					
到達目標	子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができる。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることができる。					
評価項目	講義内で指定した課題の提出物 80%、グループ発表の内容 20%					
評価基準	講義内で指定した課題の提出物の完成度、グループ発表の完成度 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	池田　満之			非常勤		
実務経験者による授業	講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。					
テキスト・参考文献	保育内容「子どもと環境」(同文書院)					
関連科目	幼児と環境					
授業計画	1.　幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容 2.　領城「環境」の内容(1~11)と指導上の留意点 3.　幼稚園教育における評価と領域「環境」 4.　領域「環境」と小学校科目とのつながり 5.　幼児の発達，学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想 6.　領域「環境」のねらい達成に向けた ICT 機器の活用法第 7.　動植物園での模擬保育に向けた指導案の作成 8.　動植物園での模擬保育（作成した指導案による実践、グループワーク） 9.　動植物園での模擬保育の振り返り 10.　教材研究：身近な自然，身近な事象，地域社会にかかわる保育実践					

保育学科　2025 年度

科目名	社会福祉			科目コード	51015901	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	30	2	無
授業の概要・目的	社会福祉の基礎知的な知識を身につけると共に、社会保険についての基礎知識を深める。 家族が抱える問題についての見識を深めると共に専門的な援助技術を理解する。					
到達目標	社会保険及び国による子育て支援の取り組みを理解する。 （年金保険、労働保険、医療保険の保障内容を理解している） 家族が抱える経済的な負担及び、身内の介護問題についての理解を深める。					
評価項目	期末試験 90%、課題 10%					
評価基準	期末試験、提出課題にて理解度を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	中原　崇			非常勤		
実務経験者による授業	社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の国家資格を持ち、これまで児童・家庭福祉、教育の領域で活動していた経験から、学生に専門職としての援助の在り方を講義する。					
テキスト・参考文献	コメディカルのための社会福祉概論					
関連科目	社会的養護Ⅰ 子ども家庭福祉					
授業計画	1. 保育士と社会福祉 社会福祉の基礎知識 2. 社会保険について 3. 健全な子育ての保障 4. 家庭が抱える問題と危機 5. 身内の介護について 6. 福祉の歴史 7. 専門援助技術の理解 8. その他の福祉制度 9. まとめ					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">保育原理</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51010201</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">保育の意義について深く理解することを目的とし、乳幼児の特質や発達の特徴、保育思想と児童観の変遷、近代保育施設・制度の創設と発展、我が国における幼稚園・保育所の成立と変遷、保育の内容・方法・計画・評価などについて多面的に学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・保育の意義について理解する。
・乳幼児の特質や発達の特徴を理解する。
・保育の思想と歴史的変遷について理解する。
・幼稚園と保育所の保育目的と規定を理解する。
・保育の内容と方法の基本を理解する。
・自分なりに保育に関する見識をもつ。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">レポート（50%）、提出物（45%）、出欠（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">・授業で学んだ４タイトルのレポートの完成度
・各単元ごとの課題提出物の内容
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">多久和　直樹</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">保育士として保育所勤務（３年）、園長（８年）</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">『保育原理』近畿大学九州短期大学通信教育部
プリント配布</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教育原理</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　オリエンテーション
2.　乳幼児の特質と保育の意義
3.　保育思想と児童観の変遷
4.　近代保育施設・制度の創設と発展
5.　各国の保育
6.　わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷
7.　保育の目的
8.　保育の内容・方法・計画・評価
9.　さまざまな保育と課題
10.　保育に関する法律、規則、基準</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">教育課程総論</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51010501</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">教育課程は、入園から修了に至る園生活のすべてである。本科目では、幼児期の教育と教育課程についての基礎的・基本的な理念を学び、教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することを目的とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・教育課程の意義や目的を理解する。
・幼児期の特質を踏まえ、教育課程のあり方に対する理解を深める。
・教育課程の編成及び指導計画の作成に対する理解を深める。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験 95%、出欠状況 5%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験にて理解度を図る。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">難波　芳子</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">『あたらしい幼児教育課程総論』第二版
岸井勇雄・横山文樹　著</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教職概論</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　教育課程総論とは
2.　乳幼児期の発達
3.　幼児の姿の捉え方
4.　幼稚園・保育所・認定こども園の基本的性格
5.　教育課程の基準
6.　保育のあり方
7.　幼稚園教育の目的・目標・ねらい
8.　教育課程と指導計画の実例
9.　教育課程の編成方法</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">図画工作Ⅰ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51010301</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">子どもの造形教育に関わる上で必要な知識、技能の習得をするとともに、適切で充実した援助、教育を行うことを目的とする。
さらに、製作や表現する楽しさを味わいながら、保育・教育の現場で必要な基礎を身につけ、様々な造形活動（制作活動）に活かすことを目的とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・制作の基本を身につけ、簡単な制作を行うことができる。
・製作活動における注意点や丁寧さ、教材の特性等の基礎を理解する。
・製作活動において発想力・創造力を引き出すことの大切さを体験的に学習する。
・グループ活動を通して、お互いに力を合わせ協力して制作を行う。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">出欠席（5%）、レポート提出物（30%）、制作課題（65%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">制作課題の完成度、提出期限等にて成績を付ける。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">川西　ともみ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">図画工作（近畿大学九州短期大学）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">図画工作Ⅱ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　図画工作を学ぶ
2.　目的について
3.　のり下敷きを作成
4.　誕生表の作成（グループ活動）
5.　身近な物を使って飛行機を作る
6.　ペープサートの製作
7.　運筆・シールやハサミ指導
8.　メッセージカードの製作
9.　自己紹介カード</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">身体表現Ⅰ-1</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51054901</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">保育、幼児教育の現場で使える手遊びやリズム遊びを学び、スキルとして身につける。また、子どもの発達に合わせたリズム遊びや表現遊びを提供できるようにする。そして、保育者としての「表現力」を身につけることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・学んだ手遊び、リズムあそびに関して、全て覚え、自分なりに堂々と表現することができるようにする。
・振り付けを考える力を身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">レポート（30%）、実技試験（65%）、出席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">実技の完成度、構成、レポート内容、各提出物の期限等にて成績を付ける。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">川西　ともみ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">実務経験：幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">阿部直美のふれあい手あそび歌あそび 101（阿部直美著）
プリント対応</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">身体表現Ⅰ-2</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　身体表現について
2.　手遊びについて
3.　リズムあそびについて
4.　振り付けについて
5.　ボディパーカッションやカップスの力を身につける
6.　発表</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	食育Ⅰ			科目コード	51010901	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	近年、社会の変化と共に子どもを取り巻く食事の状況は変化を続けている。そこで、保育、幼児教育の現場に携わる上で、子どもを中心としながらも保護者とともに食のあり方を考えられるよう、基礎知識を習得することを目的とする。					
到達目標	近年の食の状況を知り、今後の実習や保育の中で生かす。自分自身の食について考えることで、生活習慣を見直し健康的な身体づくりを意識することで、関わる子ども達の摂取している食事へ関心をもてるようにする。					
評価項目	小テスト(40%)、模擬指導(35%)、提出物（20%)、出席（5%)					
評価基準	模擬指導の完成度、小テストの成績、各提出物の期限等にて成績を付ける ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	川西　ともみ			非常勤		
実務経験者による授業	実務経験：幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。					
テキスト・参考文献	食育基本法 子どもの食と栄養（北大路書房） プリント 保育教材(絵本やペープサート・パネルシアターなど) 食育基本法 子どもの食と栄養（北大路書房） プリント 保育教材(絵本やペープサート・パネルシアターなど)					
関連科目	食育Ⅱ					
授業計画	1.　食育や食育基本法とは何か 2.　食育の必要性 3.　食べ物の旬 4.　食事指導 5.　箸のタイミング 6.　箸の持ち方 7.　確認テスト 8.　好き嫌い 9.　偏食について 10.　栄養素について 11.　保育現場の食育を知る 12.　保育現場の食育を知る 13.　自分自身の食生活 14.　まとめ					

保育学科　2025 年度

科目名	造形表現			科目コード	51055301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	通年	30	2	無
授業の概要・目的	子どもの身体的発達と幼児画の発達過程の特徴について理解し、子ども一人ひとりの発達に応じた援助の必要性について学び、成長を見守れる保育者を目指す。 演習課題については、作品制作を通して自己を表現する楽しさを知り、幼児の造形の表現理解を深め、子どもとの創作活動に役立つ様々な素材や表現方法の基礎知識と造形指導の実践的な習得を目指す。					
到達目標	・幼児教育における美術表現技法（12 種類）について理解し、レポートにまとめることが出来る。 ・絵画表現について特徴を理解する。 ・造形での発達、身体的発達を理解し、レポートにまとめることができる。 ・美術表現技法を最低 3～4 種類使用し、作品を完成できる。 ・色相環を作成できる。					
評価項目	造形課題（作品）45%、レポート課題 50%、出席 5%					
評価基準	・色相環の課題（作品 2 点）の完成度 ・造形表現の発達課題レポートの完成度 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務（３年）、園長（８年）					
テキスト・参考文献	造形表現（指導法）（近畿大学九州短期大学） 保育所保育指針 幼稚園教育要領 図画工作（近畿大学九州短期大学） 造形表現（指導法）（近畿大学九州短期大学） 保育所保育指針 幼稚園教育要領 保育園・幼稚園実習完全マニュアル改訂版（成美堂出版） 図画工作（近畿大学九州短期大学） 発達心理学（ミネルヴァ書房）					
関連科目	図画工作Ⅰ					
授業計画	1.　授業オリエンテーション 2.　表現とは何か 3.　造形表現とは何か 4.　幼児教育における絵の発達について 5.　幼児教育における絵の発達について 6.　幼児教育における絵の発達について 7.　幼児教育における絵の発達について 8.　幼児教育における絵の発達について 9.　幼児教育における絵の発達について 10.　幼児教育における絵の発達について 11.　人間像の発達過程 ・美術表現技法 ・造形表現の種類 ・身体的発達について ・造形表現について ・色彩基礎演習					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">情報処理入門Ⅰ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51058301</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>通年</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">基本的な情報処理用語からパソコン操作までをスムーズに行える。
実習課題を中心に用語や操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">表計算ソフトの基本機能と操作方法を習得する。
サーティファイ主催 Excel 表計算処理技能認定試験 3 級の取得。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">実技評価（80%）、課題提出(15%)、出欠席(5%)</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">実技試験、課題提出にて理解度を図る。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">中上　篤</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">システムエンジニアとしての勤務経験を活かし、学生がコンピュータに関する基礎的な知識を理解できるように講義する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">実教出版　30 時間マスター　Office2019</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">パソコン演習</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　Excel2019 とは
2.　データ入力の基礎
3.　関数計算
4.　相対参照と絶対参照　罫線グラフの作成
5.　順位付け・並べ替え
6.　フィルターその他の機能</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	音楽Ⅰ			科目コード	51010101	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	1 年次	通年	60	4	無
授業の概要・目的	日々の保育において音楽を生かした遊びや活動を行うために必要な、ピアノや声楽の基本、音楽理論を学ぶ。					
到達目標	ピアノ初心者でも両手奏ができ、簡単な弾き歌いができる。 音楽理論の基本を身に付ける。 楽譜を短時間で読めるようにし、弾き歌いのレパートリーを増やす。					
評価項目	確認テスト（75%）、期末試験（20%）、出欠席（5%）					
評価基準	随時確認テストを行い、熟練度を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	井上　美樹			非常勤		
実務経験者による授業	音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。					
テキスト・参考文献	・「音楽（ピアノ教本）」、「音楽（声楽教本）」近畿大学九州短期大学 ・「子どものうた 100」チャイルド本社 ・プリント					
関連科目	音楽Ⅱ					
授業計画	楽譜の読み方、指の使い方 童謡の弾き歌い 課題曲の随時テストを行っていく ※近畿大学　ピアノ評価表を参考に課題曲を行う ※個人のピアノ歴、音楽歴を確認し、個人目標を設定して実施していく。					

保育学科　2025 年度

科目名	健康科学			科目コード	51054301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	生涯にわたるスポーツの役割を正しく把握し、子ども一人ひとりの健全な育成をサポートする指導者として、スポーツに関連する専門知識を養う。					
到達目標	レポート、科目終末試験の合格を目指す。 レポートは、勝利至上主義と商業主義の意味を理解した上で適切な記事を選択し、スポーツに対する自分の考えを述べることができている。					
評価項目	近畿大学終末科目試験の成績に準ずる（100%）					
評価基準	要点をとらえて解答が行えているかを総合的に判断する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	石田　博也			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	「生涯スポーツ・健康科学」 著者　鐘ヶ江 淳一 編集兼発行者　通信教育部 発行所　近畿大学九州短期大学（2012）					
関連科目	生涯スポーツ					
授業計画	1. 現代社会におけるスポーツの意義と課題 2. スポーツのもつ概念の変遷について 3. 余暇の実状とスポーツ・地域社会の実状とスポーツについて 4. 学校スポーツと職場スポーツについて 5. 商業スポーツと地域スポーツについて 6. 健康概念の変遷と WHO の健康の定義について 7. 健康阻害要因とスポーツに期待される機能について 8. 幼児期の体力づくりについて 9. 運動処方における運動の条件について					

保育学科　2025 年度

科目名	生涯スポーツ			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	1 年次	後期	30	1	無
授業の概要・目的	各種スポーツ（バレーボール、バトミントンなど）の技能向上を中核目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的、社会的背景についての理解を深めていきたい。 さらに「生涯スポーツ」の理念の理解を推進していく上での課題を、現代スポーツ現象（勝利至上主義・商業主義）を批判的に検討する中で明らかにしていきたい。 現代のスポーツにおけるリスクマネジメント（けがの防止、応急処置）も同時に学んでいく。					
到達目標	子ども及び障がい者などあらゆる人を対象とした運動、スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。 また、その中でスポーツ活動のレパートリーを増やす。					
評価項目	授業中に提示する課題レポート（50%）、単位修了試験（発表や実践）（50%）					
評価基準	授業中に提示する課題レポートの内容、単位修了試験の結果にて評価する ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	石田　博也			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	厚生労働省『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月）』フレーベル館 随時、資料を配布する。					
関連科目	健康科学					
授業計画	1.　アイスブレーキングゲーム、コミューケーションゲーム 2.　幼児期および青年期以降における運動あそび、スポーツの意義と課題 3.　運動あそび、スポーツの内容の検討①（グループワーク） 4.　運動あそび、スポーツの内容の検討②（グループワーク） 5.　ストレッチ、ウォーキング 6.　卓球①　（基本的な動きとルールの理解） 7.　卓球②　（ゲーム） 8.　バドミントン① 9.　バドミントン② 10.　バスケットボール① 11.　バスケットボール② 12.　運動あそび、スポーツの実践					

保育学科　2025 年度

科目名	日本国憲法			科目コード	51011801	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	30	2	無
授業の概要・目的	日本国憲法は、国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指し示したものであるから、憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、そして、その原理・原則を実現するための政治のしくみはどうなっているかを体系的に学習する。					
到達目標	憲法が求めている“日本の姿”と現実社会との間にいくつかの矛盾や問題があることに気づき、それらの矛盾や問題をひとりの国民としていかに考えるか、そのリーガルマインドを養っているのが到達目標。					
評価項目	期末試験（95%）、 出欠席（5%）					
評価基準	期末試験にて成績を付ける。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	児玉　義明			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	日本国憲法　近畿九州短期大学					
関連科目						
授業計画	1.　憲法とは何か 2.　日本国憲法とは 3.　国民主権について 4.　基本的人権について 5.　自由権について 6.　社会権について 7.　平和主義と自衛隊について 8.　三権分立について 9.　地方自治について 10.　日本国憲法のあり方について					

保育学科　2025 年度

科目名	幼児と音楽表現			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。楽曲の作品解釈を行い、音楽表現の向上と音楽方法についても検討する。 （個人レッスンとともに全体での体験的な学びを実施する。）					
到達目標	歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法の基礎を習得する。 教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。					
評価項目	実技試験（80%）、課題（20%）					
評価基準	実技試験、提出課題の完成度等にて成績を付ける ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	井上　美樹			非常勤		
実務経験者による授業	音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室					
テキスト・参考文献	「音楽＜声楽教本＞」「音楽＜ピアノ教本＞」「子どものうた 100 選」					
関連科目	音楽Ⅰ					
授業計画	1. 発声のメカニズムと発声法／ピアノ基礎練習 2. 拍子とリズムの指導方法 3. 子どもの歌 4. 音程　コールユープンゲン：9・10／ハ長調（子どもの歌）の実施 5. バイエル、子どもの歌の練習 6. 実技試験（弾き歌いを含む）					

保育学科　2025 年度

科目名	造形表現(指導法)			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	・造形表現の技法、身近な素材から教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。造形表現の基礎教養を各課題と体験を通し資料配布と定期試験を行うことで教授する。 ・実践的な学びをするために、表現技法などを体験的に学ぶ。					
到達目標	・幼稚園教育において、育みたい資質、能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について、背景となる造形表現と関連させ理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ・授業で制作した作品は、実習や保育現場での参考になる為、作品を保管し、制作方法と感想や作品写真で記録する。					
評価項目	講義ごとの作品課題の完成度（80%）、レポート課題（20%）					
評価基準	講義ごとの作品課題の完成度、レポート課題の完成度 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊藤　智里			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	講師より随時プリント配布					
関連科目	幼児と造形表現					
授業計画	1. 幼稚園教育の基本、「表現」領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解 2. 「表現」領域のねらい及び内容、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解 3. 幼稚園教育における評価の理解 4. 「表現」領域において幼児が経験する内容の関連性と小学校の教科等とのつながりの理解 5. 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた表現領城における保育構想の園要性と理解 6. 「表現」領域の特性、幼児の体験との関連を考慮した保育における情報機器及び教材の活用法 7. 指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解 8. 模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点への理解 9. 「表現」領域の特性に応じた保育実践の動向と保育構想の向上への取り組みと理解					

保育学科　2025 年度

科目名	言葉(指導法)			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	人間にとって重要な役割を果たす「言葉」について、保育・教育で活用する。 教材とともに体験的に理解し、保育者として子どもの関りに必要な方法を学び、実践できる。幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必須科目である。 『保育所保育指針』･『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関り方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。 講義形式・グループワーク、実践事例を実施する。					
到達目標	①人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関り方を身につけ、実践できる。 ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。					
評価項目	単位修了試験（50%)、提出課題(50%)					
評価基準	※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	髙岡　純子			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	・厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018 年　フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018 年　フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2017 年　フレーベル館					
関連科目	幼児と言葉					
授業計画	1.　人間にとって言葉とは何か 2.　人間にとって言葉とは何か 3.　保育内容・言葉を理解する視点としてのコミュニケーション 4.　保育内容・言葉「ねらい」の理解 5.　保育内容・言葉「内容」の理解 6.　配慮を要する子どもの言葉と支援 7.　言葉を通した楽しい関わり 8.　子どもの言業をひきだす保育者の関わり 9.　子どもの表現力・文字への気づき 10.　子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践					

保育学科　2025 年度

科目名	幼児と言葉			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』などに挙げられる 5 領域の中の「言葉」を元に基礎事項を学び、実践的な技術、知識を身につける。					
到達目標	・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 ・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について					
評価項目	期末試験（75%）、確認テスト（20%）、出席（5%）					
評価基準	試験にて理解度を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	髙岡　純子			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』 授業の中で必要に応じて参照する。					
関連科目	言葉（指導法）、言語表現					
授業計画	1.　言葉の意義や機能 2.　言葉の発達と理解 3.　絵本を生かした保育と絵本の紹介 4.　お話作り 5.　幼児における児童文化財の意義 6.　子どもの言葉と表現力 7.　読み聞かせの意義と魅力 8.　読み聞かせの実践における工夫 9.　言葉を楽しむための言葉遊び、文字遊び 10.　言葉の発達と表現力					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">幼児と人間関係</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51060201</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">・子どもたちが他者との関係の中で健全に自己を育み、他者と協働しつつ、幸せに生きていく力の一つに「異なる他者と協働する力」を、領域「人間関係」から学ぶ。
・領域「人間関係」の理解から友だちとの関り、保育士や大人との関り、すべて人との関わりの中で支え合って生きていることの理解。
・自分と異なる他者との関りをより豊かにするために、幼児教育で大切にしたい観点及び保育士の視点。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・保育内容５領域は明確に切り分けられるものではなく、相互に重なりをもって日々総合的に保育がなされていることの理解。
・「人と関わる力」の育成は、保育の質及び保育者の関わり方の影響が大であることの理解。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">終末試験（95%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">終末試験の成績にて評価を行う。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">小坂田　佐弓</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">幼児と人間関係　―保育者を目指す―　同文書院</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">人間関係（指導法）</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 子どもの発達と人間関係
2. 領域「人間関係」の狙いと内容
3. 保育者のかかわり方と集団づくり
4. 対話から生まれる「協働的な学び」
5. 「人間関係」の社会的背景
6. 保育における子ども同士の関係
7. 子どもとの関りを通した幼児理解と評価
8. 保育と小学校の接続</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	幼児と環境			科目コード	51060301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	幼稚園教育要領や保育所保育指針に沿って、乳幼児期における身近な環境との触れあいについて、具体的な事例を取り上げながら解説していく。また、乳幼児期の発達におけるさまざまな環境に意義や役割について詳しく学ぶ。					
到達目標	幼稚園教育要領や保育所保育指針に沿って、乳幼児期における身近な環境との触れあいについて、具体的な事例を知る。また、乳幼児期の発達におけるさまざまな環境の意義や役割について学ぶ。					
評価項目	近畿大学科目終末試験成績に準ずる（100%）					
評価基準	近畿大学科目終末試験の成績に準ずる ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務(3 年)、園長(8 年)					
テキスト・参考文献	保育内容「環境」 柴崎正行・若月芳浩　編					
関連科目	環境（指導法）					
授業計画	1.　保育の基本とは保育内容とは 2.　子どもの発達の見方・捉え方「環境とかかわる力」の発達とは 3.　保育の計画とは 　領域「環境」とは 4.　身近な自然とどう関わっているか 　生き物とどうかかわっているか 　身近なものとどう関わっているか 5.　文字や記号とどうかかわっているか 数量や形とどうかかわっているか 　園内外の行事とどうかかわっているか 6.　指導計画と領域 　環境構成と領域 　保育者の役割と領域 7.　「環境」と保育の実際について 8.　「環境」と実践上の留意点について 9.　保育内容・領域「環境」の改訂 10.　まとめ					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">社会的養護Ⅰ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51058501</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">社会的養護についての概要を理解し、保育士としての専門性を高める。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">社会的養護の仕組みについて理解が出来ている。
社会的養護を要する児童について専門職としてどのように支援をするのか、倫理や制度、専門技術等をふまえた上での支援のあり方を理解出来ている。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（85%）、提出課題（10%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験にて理解度を図る。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">中原　崇</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の国家資格を持ち、これまで児童・家庭福祉、教育の領域で活動していた経験から、学生に専門職としての支援の在り方を講義する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">社会的養護Ⅰ</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">社会福祉</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　社会的養護とは何か
2.　社会的養護を担う上での専門性
3.　関連法規及び制度等の理解
4.　虐待防止について
5.　社会的養護を要する子どもへの支援
6.　家庭支援の在り方
7.　まとめ</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">劇あそび（指導法）</td><td>科目コード</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。
伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。
毎時間、復習ノートの作成を行う。（感想レポートの作成）</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。
・子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。
・子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">発表（70%）、レポート課題（30%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">発表の完成度、レポートの完成度にて評価を行う。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">石田　博也</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">内閣府・文科省・厚労省『幼保連携型こども園教育、保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社）
その他、参考資料として適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　領域「表現」のねらいと内容
2.　身ぶり表現の発達
3.　身ぶり表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方
4.　幼児の音楽表現（保育現場での音楽・リトミック）
5.　「劇あそび」の意義と役割
6.　「劇あそび」における援助（イメージの実現・環境の設定・人との関わり）
7.　「劇あそび」の指導計画立案の要点・作成（表現あそび課題説明）
8.　グループ発表と鑑賞・振り返り</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">教育方法論</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51051401</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">『教育方法論』では、これからの社会を担う子どもに求められる能力、資質を育成するために必要な教育の方法、技術に関する基礎的な知識、技能を身につけることを目的とする。
幼稚園や保育所の役割を考えながら、具体的な援助や指導の方法について考える。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">幼児教育における教育方法の原理、方法や技術に関する基礎知識を習得している。
幼児教育の方法に関する基礎理論を理解している。
知識と理論を踏まえ、保育現場における実践を構想できる。
情報機器や教材の適切な活用に関する基礎的な能力を身につけている。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験(95%)、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験にて理解度を図る。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">小坂田　佐弓</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">『幼児教育・保育のための教育方法論』
垂見直樹・池田竜介　編著
ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教育原理</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　教育方法の基礎理論
2.　日本の幼児教育方法の歴史
①前近代の社会と子育て
3.　日本の幼児教育方法の歴史
4.　②幼稚園の誕生と初期の幼児教育実践
5.　環境を通して行う教育
6.　子どもの育ちと物的環境
7.　子どもの育ちと人的環境
8.　子どもの育ちと社会的環境
①地域社会と子どもの育ち
9.　子どもの育ちと社会的環境
②保育者と伝統行事
10.　幼児理解に基づいた評価
11.　幼児教育・保育における遊び
①幼稚園教育要領における遊び
12.　幼児教育・保育における遊び
②「遊び＝学び」について考える
13.　幼児教育・保育における計画と評価
14.　幼児教育・保育における情報機器(ICT)の活用
15.　情報活用能力と幼児教育・保育
16.　幼児教育・保育のこれから</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">教職概論</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51053001</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">教師論は教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目的としている。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・三つの教育観について自分の言葉で説明できる。
・日本の教師の歴史について理解を深める。
・教師の使命、求められる資質能力について自分の言葉で説明できる。
・現代社会の子どもの現状とそれに合わせた保育者としての援助について理解する。
・これからの時代に向けた新たな教師の役割について理解する。
・自分なりの理想の教師像をもつことができる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験(80%)、課題レポート提出(15%)、出席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験成績、課題レポート完成度にて評価を行う。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">難波　芳子</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">あたらしい幼児教育課程総論</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教育課程総論</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　教育とは何か
2.　3 つの教育観について
3.　教師の仕事とは
4.　教師の専門性と指導力について
5.　日本における教師の歴史について
6.　情報社会と消費社会における子どもの現状
7.　子どもの仲間集団について
8.　教師と子どもの信頼関係
9.　園を支える人々とその仕事
10.　国際化、情報化における教師の役割
11.　教師の研修について
12.　振り返り</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	保育内容総論			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	・幼稚園教育要領や保育所保育指針、保育・教育要領における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容の全体的な構造を理解することを目的とする。 ・幼稚園・保育園における子どもの生活と保育内容を具体的な実践例を通して学ぶ。 ・子どもの発達と遊びの特質を踏まえ、保育の計画とその展開について、教材研究や指導計画の立案などを通して学ぶ。					
到達目標	・「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容の全体的な構造を理解することを目的とする。 ・保育の基本を踏まえた子ども理解と、それらに基づいて保育内容の展開を考える基礎的能力を身に付ける。					
評価項目	課題レポート（50%）・小テスト(50%)					
評価基準	課題レポートの完成度、小テストの成績にて評価を行う ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務(3 年)、園長(8 年)					
テキスト・参考文献	保育所保育指針、保育・教育要領、幼稚園教育要領 保育内容総論（中央法規）					
関連科目	保育所実習指導Ⅰ.Ⅱ					
授業計画	1.　保育内容とは 2.　保育内容と活動 3.　子どもの発達過程に応じた保育 4.　子どもの発達過程に応じた保育 5.　子どもの発達過程に応じた保育 6.　子どもの発達過程に応じた保育 7.　子ども理解 8.　子ども理解 9.　子ども理解 10.　養護と教育について					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ビジネス実務ⅡB</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51050401</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。
そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とし講義内容とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・自分の強みを知り、効果的に自分を伝える方法を学ぶ。
・社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。
・明確な目標設定ができ、それに向かって努力ができる。
・マナー、礼儀を身につけ、社会人としての判断ができる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（95%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">伊丹　稔博</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">ビジネスマナー基本テキスト
（日本能率協会マネジメントセンター）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">ビジネス実務ＩＡ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．電話の応対
①電話の基本マナー
②電話の受け方・かけ方
③不在者宛ての電話対応
④伝言のポイント
⑤携帯電話のマナー
⑥電子メールの基本マナー
２．応対のマナー
①来客応対
②案内の基本
③席次の基本知識
④お見送りの基本
⑤訪問の予約の取り方、取次依頼、面会時のマナー
⑥名刺交換マナー
⑦お茶の出し方</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">身体表現Ⅰ-2</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51055001</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">保育、幼児教育の現場で使える手遊びやリズム遊びを学び、スキルとして身につける。
また、子どもの発達に合わせたリズム遊びや表現遊びを提供できるようにする。
そして、保育者としての「表現力」を身につけることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・振り付けを作る基礎の表現方法を身につける。
・運動会の遊戯の選曲の仕方や見せ方、振り付け、幼児への指導方法について実践的なスキルを身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">レポート（45%）、実技試験（50%）、出席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">レポート、実技試験の完成度にて成績を付ける。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">川西　ともみ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、実践的な表現遊びやリズム遊びを指導する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">阿部直美のふれあい手あそび歌あそび 101（阿部直美著）
プリント対応</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">身体表現Ⅱ－1</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">動画を見通して学ぶ
グループの構成と遊戯について考える
発表</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	保育所実習指導Ⅰ			科目コード	51056501	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	1 年次	後期	30	2	無
授業の概要・目的	・保育の知識や技能の学びを深め、実際に子どもの前に立ち保育実践に生かせることを目的とする。 ・保育実習の意義、目的を理解し、保育士としての資質（子どもの内面を読み取る）保育の基盤となるところを学ぶ。 ・保育にあたっては指導計画があり、子どもの心身の発達を保障する計画を立案することを学ぶ。					
到達目標	・保育士として必要な資質、人としての人間性を理解し、実習の心構えを身につける。 ・保育所実習における手遊びや部分指導、中心保育の計画、立案、指導案作成ができるようになる。					
評価項目	レポート（80%）、模擬保育の実践（15%）、出欠席（5%）					
評価基準	レポートの完成度、期限等にて成績を付ける。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	吉岡　さなゑ			非常勤		
実務経験者による授業	公立保育所において保育士・主任保育士・副園長・園長として勤務し、40 年間保育にあたる。保育現場で、長年に渡り実習生を受け入れ、指導担当を務めた。					
テキスト・参考文献	・保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会） ・保育園・幼稚園の実習完全マニュアル（成美堂出版） ・フォトランゲージで学ぶ　子どもの育ちと実習日誌・指導計画（萌文書林）					
関連科目	保育実習指導Ⅱ					
授業計画	1.　保育実習にあたって 2.　保育の理解 3.　障害のある子どもの保育 4.　健康及び安全 5.　子育て支援 6.　指導案の形式と捉え方 7.　指導案作成 0 歳児 8.　指導案作成 1 歳児 9.　指導案作成 2 歳児 10.　指導案作成 3 歳児 11.　指導案作成 4 歳児 12.　指導案作成 5 歳児 13.　手作り教材作成 14.　模擬実習					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">ペン字上級</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">日常生活に役立つ行書（美しいつづけ字）を学ぶ。
行書のルールを覚え、一筆箋、封筒、年賀状、のし袋（筆ペン）を書いてみる。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">書き込み式のテキストを使用。
行書のポイント、ルールの解説。
反復練習したものを個別指導により上達をはかる。日常生活に役立つ課題で、楽しく学び続けることを期待する。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">一筆箋 50%、封筒 10%、ハガキ表 10%、ハガキ裏 10%、のし袋（筆ペン）10%、出欠席 5%
感想 5%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">各授業の課題により評価
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">三宅佳与</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">書塾で教鞭をとり 30 年
現在は学校教員の指導講座ももつ</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">「大人字にかわる　ペン字練習帳」新星出版社</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．美しい行書のルール
２．漢字の正しいくずし方（部首別）
３．ひらがなのリズム
４．ひらがなの連綿（つづけ方）
５．封筒、ハガキの表書き
６．はがきの裏（年賀状、暑中見舞い、メッセージカード）
７．一筆箋
８．のし袋（筆ペン）</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ビジネス英語</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">グローバル社会が進む中、企業内の標準言語が英語になるなど、ビジネスにおいて英語を使う機会が増えている。ビジネスの場で、簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付けることを目的としている。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・挨拶、依頼表現、電話取次を簡単な表現で出来るようになる。
・メールで頻出の表現を使えるようになる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験 90%、授業態度 5%、出席率 5%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の確認問題から出題
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">佐藤　眞佐子</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">民放局アナウンサー8 年。全国各地で高校生に英語英会話指導 20 年以上。英語スピーチコンテスト等での日英司会、トーストマスターズクラブでの日英スピーチ中四国大会優勝、全国大会ファイナリスト。日本ソムリエ協会認定ワインエキスパート資格を活かし、仏・豪ワイナリー訪問多数。トーストマスターズクラブやワイナリー訪問を通じた異文化コミュニケーション経験も豊富。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">「キクタン英会話（オフィス編）」アルク出版社</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　基本フレーズ
2.　基本フレーズ
3.　あいさつ
4.　始業前
5.　日常業務
6.　備品・機器
7.　休憩
8.　来客・面会
9.　電話
10.　会議
11.　予定
12.　アフター５
13.　ロールプレイ演習
14.　ロールプレイ演習
15　電子メール
16.　試験対策・重要表現</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	エクセル上級			科目コード	51090021	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	Excel のスキルををあらゆるビジネスシーンで活用できるように、基礎知識から応用まで幅広く学び、PC スキルを社会で活かせる人材育成を目的とする。					
到達目標	関数を使った集計や分析、ピボットテーブルやマクロなど Excel の機能を活かした資料作成能力を身に着ける。					
評価項目	期末試験(95%)、出欠席(5%)					
評価基準	期末試験：各単元の確認問題から出題 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤　敬輔			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する。					
関連科目						
授業計画	1.Excel 基礎知識の確認 2.Excel 基礎知識の復習 3.ショートカットキーの活用 4.関数の活用（vlookup.sumif） 5.機能の紹介(マクロ・ピボットテーブル) 6.練習問題					

«通し番号»

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">医療事務</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">医療機関の役割、医療保険制度の仕組みを知り、簡単な医療費の計算方法を習得する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">医療保険制度の仕組みを理解する。
医療事務の業務内容を理解する。
簡単な医療費の計算を習得する。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験 95%、出欠席 5%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の確認問題から出題
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">矢ケ﨑　忍</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">医療機関にて約 8 年間、医事課に所属し各外来・入院受付、会計、診療報酬請求業務、クラーク業務を担当</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　医療機関の概要
2.　医療機関の仕事
3.　医療費の計算</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">RPA 実習</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">作業自動化ツールである RPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラム的思考力を養う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">事務作業の分析を行い、Power Automate Desktop に手順を登録して、実際に作業の自動化を行えるまでのスキルをつける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">レポート（90%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）で評価をつける。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">田中　優平</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">工場の監視・制御系システムの SE・PG として従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 環境準備
業務自動化のメリットを考える
2. レコーダ機能を使ったフロー作成
3. EXCEL 作業を自動化
4. Web フォームへの自動化
5. 業務シーン別のテクニック理解
6. 自動化業務の作成、発表</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">情報リテラシー</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">業務で役立つ Windows の便利な機能や、社会に出てから必要となるセキュリティ知識や AI の活用方法などについて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">社会人になるにあたり教養、たしなみ、判断力、理解力等を身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験(90%)、授業態度(5%)、出欠席(5%)</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の確認問題などから出題
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">藤井 克俊、岡本 和也、近藤 進介</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">システムエンジニアとしての勤務経験を活かし、学生が社会人として相応しい知識、マナーを理解できるように講義する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．Winidows の操作
２．情報セキュリティ
３．AI の活用</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">データマーケティング</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">データを根拠に考え、新しいアイデアを考案するための方策を学ぶ。Excel を活用した分析手法についても修得する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">データを基に読み込んだ情報についてまとめて発表することができる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（95%）、出欠席（5%）で評価をつける。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の確認問題などから出題
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">小林　聖治、田中　光</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">実務経験：印刷会社にて企画営業として、企画提案、プレゼン、ディレクション業務をおこなってきた経験を活かし、実務に則した指導をおこなう。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. オリテ
2. ビッグデータとは
3. データの活用
4. グラフの作成
5. その他データの活用と各業界の関連
6. マーケティングの基礎・活用</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ファイナンシャルプランナー</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>講義</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">身近なお金の知識やこれから必要になるお金の知識を学ぶ。投資など資産運用について基本的な知識を身につける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">学んだ知識を第三者に伝えることができる。用語が理解できる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（95%）、出欠席（5%）で評価をつける。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の確認問題などから出題
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">藤野　流光</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. ライフプラン
2. リスクマネジメント
3. 金融資産
4. タックスプランニング
5. 不動産
6. 相続</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	一般知能			科目コード	51090021	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	講義	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	数的推理・判断推理を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける。					
到達目標	いくつかの条件を整理して、答えを導き出していくという論理的思考力を身につけることが目標である。					
評価項目	期末試験 60%、確認テスト 35%、出席率 5%					
評価基準	確認テスト：各授業で行われる単元別確認テストで理解度をはかる。期末試験：数的処理能力を問う科目試験を行う。その試験結果により判定し、評価する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	武下　浩史			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する。					
関連科目						
授業計画	１．暗号 ２．速さ ３．図形問題 ４．対応関係 ５．食塩水 ６．勝敗 ７．うそつき					

«通し番号»

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">フラワーアレンジメント</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>１年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">フラワーデザインの基本的な知識を習得し、形や構成からテーマを表現する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">花への興味を深め、毎回デザインの構成理論を踏まえた上で作品を構成し
植物の知識を身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">作品(90%)、授業態度(5%)、出席率(5%)</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">永宗　教子</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">フラワーアレンジメント実務３０年</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．植物の扱い方
２．吸水フォーム
３．テーブルアレンジ
４．復習
５．ブートニア
６．ミニブーケ
７．リース</td></tr>
</table>

«通し番号»

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ゲームプログラミング</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">ゲームプログラミングを通じて論理的思考法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">一見難しいプログラミングなども諦めずコツコツと積み上げていくことで完了させられることを体感する。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">課題提出(95%)
出欠席(5%)</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">各授業の課題により評価
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">宇野　光司</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">通販、介護、銀行等のシステム開発経験を活かし、学生が情報処理に関する基礎的知識を習得できるよう、講義を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．Unity の概要
２．プログラミングとアルゴリズム
３．プログラミング環境構築
４．プログラミング実習
５．プログラミング改変</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	広告映像			科目コード	51090021	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	会社の広報 SNS などに必要な写真の撮影、および動画制作を通して、情報や魅力をわかりやすく伝える力を身につける。					
到達目標	効果的な動画構成を理解して制作できるようになる。					
評価項目	課題提出(95%) 出欠席(5%)					
評価基準	各授業の課題により評価 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	赤木　沙英子			常勤		
実務経験者による授業	CM 企画・制作 11 年 ディレクター9 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目						
授業計画	１．動画制作の基本的な考え方 ２．動画制作の基本操作、 ３．課題：ドラマカット① ４．課題：ドラマカット② ５．課題：クラス動画					

«通し番号»

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ビジュアルデザイン</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51090021</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>演習</td><td>1 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">デザインアプリ Figma を使用。商業デザインの制作を通して、レイアウト、表現技法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">情報を適切に伝えるための視覚表現力を身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">課題提出(95%)、出欠席(5%)</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">各授業の課題により評価
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">太田　真行</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">広告ディレクター：3 年</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">授業中に適宜資料を配布する</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．商業デザインの基本的な考え方
２．デザインアプリの基本操作
３．課題：名刺
４．課題：チラシ
５．課題：ポスター</td></tr>
</table>

«通し番号»

保育学科　2025 年度

科目名	世界情勢			科目コード	51090021	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	1 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	自国の習慣や考えだけにとらわれることなく、他国の習慣・文化に共感し、異文化間での協力関係を構築する素地を身に付ける					
到達目標	ワークショップの中で異文化を理解・共感する姿勢を身につけ、世界の問題を自分ごととしてとらえられる力を養いながら、自身の意見をもちそれを発信できるようになる。					
評価項目	期末レポート 45%、課題レポート 50%、出欠席 5%					
評価基準	各授業の課題レポートと期末レポートにより総合的に評価 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	岡崎　良美			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目						
授業計画	１．世界の言葉で「こんにちは」 ２．１００人の村 ３．あなたの夢は何ですか、私の夢は大人になるまで生きることです ４．世界の問題 ５．世界の問題②					